



子どもたちに体を動かすことのおもしろさ、
楽しさを伝えよう!

元気に遊ぼう! ACP キッズ

最終回

アクティブ・チャイルド・プログラム

昨年度より本格的な普及がスタートした「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム(以下、ACP)」。本誌では「どのように活用していくべきか」をテーマに、全国各地で「遊び教室」を開催し、その模様をリポートしてきた。本格普及2年目を迎えた今年度は、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ、幼稚園、保育所、小学校などで実際に活用されているACPの模様をリポート。幼児期以降の子どもたちを指導する皆さんに役立つヒントを提供していく。

初年度から関心を集めた
幼児期からの
「ACP講師講習会」

「幼児期からのACP」普及2年目を迎えた今年度。新たな試みとして導入されたのが「講師講習会」の開催だ。各地域で「幼児期からのACP」を指導・普及できる講師を養成するために、都道府県スポーツ少年団からの推薦者(原則各都道府県3名)を対象に計画された。昨年9月17日・18日に埼玉県のスポーツ総合センターで開催され、その後、12月17日・18日に福岡県のアクシオン福岡、12月23日・24日に愛知県の愛知県武道館でも実施され、初年度予定の3回の講習会を終了。どの会場も多数の受講者が集まり、「幼児期からのACP」への関心の高さをあらためて実感させる講習会となつた。最終回は、第1回目の埼玉会

「幼児期からのACP」普及2年目を迎えた今年度。新たな試みとして導入されたのが「講師講習会」の開催だ。各地域で「幼児期からのACP」を指導・普及できる講師を養成するために、都道府県スポーツ少年団からの推薦者(原則各都道府県3名)を対象に計画された。昨年9月17日・18日に埼玉県のスポーツ総合センターで開催され、その後、12月17日・18日に福岡県のアクシオン福岡、12月23日・24日に愛知県の愛知県武道館でも実施され、初年度予定の3回の講習会を終了。どの会場も多数の受講者が集まり、「幼児期からのACP」への関心の高さをあらためて実感させる講習会となつた。最終回は、第1回目の埼玉会

香川県のほぼ中央部に位置する綾川町、丸亀市、高松市などを中心に、保育所や幼稚園で外部講師として子どもたちに「運動遊び」を指導しているのが澤宜英さんだ。澤さんは大学卒業後、当時は県内でも珍しかった男性保育士として幼稚園、保育所に勤務。同時に「幼稚園サッカー」を

指導し、徐々に子どもたちとの運動遊びも行うようになつたといつ「この道、二十数年」のベランだ。「幼児期からのACP講習会」では何でも吸収しようと、「この道、二十数年」のベランだ。「幼児期からのACP講習会」では何でも吸収しよう。

場受講者の中から修了生を選び、その指導現場を訪問。講師講習会でどのようなことを学び、それが実践の場でどのように生かされているかをリポートし、講師講習会の成果の一端を検証してみた。

香川県綾川町

「ACP講師講習会」で学んだ 遊びの指導法・指導技術を それぞれの現場で活用する



澤宜英さん(左)の運動教室はまず体を動かすことからスタート「全身で1、2、3!」



よしひと
監修／佐藤善人
東京学芸大学教育学部准教授

指導法・指導技術のポイント

*澤宜英さんの一連の遊びを通じて、以下のような指導ポイントが見られました

- ①まずは体を動かす
遊びを通して、子どもから声と動きを引き出す
- 例1 簡単な手遊び
- 例2 簡単な全身運動
(「ひらひら」と「縦やよる」と一緒に)
- ②遊びを通して、子どもから声と動きを引き出す
- 例1 簡単な手遊び
- 例2 簡単な全身運動
(「ひらひら」と「縦やよる」と一緒に)
- ③合言葉、合図など
例1 うまくいった
→ ゲータッチ
- 例2 指導者自身のオーバーリアクション
(「ひらひら」と「縦やよる」と一緒に)
- ④レバートリームアレンジ
・リズムの変化
- ・単一の動き→複数の動き
- ・難易度の変化
- ⑤ゲーム性を高める
・作戦タイム
(作戦の有無はともかく士気を高める)
- ・両側性(右→左)
- ・上肢の動き→下肢の動き
- ・大人に挑戦する
- ⑥遊びを通して多様な動きを引き出す
経験する

うとい積極的な姿勢と、大柄な体格に似合わぬ機敏な動きがひとときわ目立つ存在だった。「昨年の春まで大学院に通い、親子体操に関する修士論文を書いていたので、ACPにも興味を持っていました。講師講習会の講義や実技は興味深いことばかりで、とても参考になりました。

私は自分なりのやり方で運動遊びをしてきたので、講習会のように勉強できる場はとても新鮮です。この遊びがいい、「この遊びダメ」ではなく、自分がやってきた遊びも含めて、いろいろな遊びをアレンジしていくのが大事であると感じました。

ゲーム性を高める



「爆弾ゲーム」の作戦タイム。作戦の有無はともかく士気を高める(※参照)



ゲーム前の声かけ。「頑張るぞっ!」「絶対勝つぞっ!」



ボールの数で勝敗を決める。勝つことも負けることも経験



ボールを使って多様な動きを引き出す。指導者自身のオーバーリアクションも大切



とにかく新しい刺激でした」(澤さん)

澤さんは昨年から、綾川町が展開する「さらきら子育て事業」の一環である

運動遊びの活動に協力している。毎月一度、綾川町内にあ

る昭和認定こども園と陶保育

所を訪ね、3歳以上の児童たち

を対象に実施する運動教室だ。

「きらきら子育て事業」の推進

役を務める綾川町役場・子育て

支援課の井手上寛子課長は、

「子どもの笑顔がきらきら、個性がきらきら輝いてほしい」とい

う願いで始めた企画です。町内

にある7つの保育所、幼稚園、認定こども園を対象として、運動遊び、芸術、英語のいずれかをテーマとして専門の外部講師

を招き、保育所ごとの特色を生かしながら取り組んでいます。

澤「一チにはさまざまな面で、協力いただけています。保育士たちにはいい刺激になり、子どもたちも自分から体を動かして遊びを楽しむ姿が増えています。

泽「一チにはいい刺激になり、子どもたちも自分から体を動かして遊びを楽しめることです。一つの遊びをさまざまに楽しめるよう

に、アレンジはいつも意識しています。子どもたちの反応が薄ければ、遊びを少しずつ変えています」

澤さんは二つの遊びをさまざまにアレンジして、子どもたちから多様な動きを引き出すこ

とを心がけている。講師講習会で紹介された遊び「言うこと

一緒やること一緒に」がいい例だ(上表参照)。一つの遊びからリズム

生かされている遊びのアレンジと指導者からのスキンシップ

「きょうの遊びのねらいは、体を

精いっぱい動かすことです。一つの遊びをさまざまに楽しめるよう

に、アレンジはいつも意識しています。子どもたちの反応が薄ければ、遊びを少しずつ変えています」

澤さんは二つの遊びをさまざまにアレンジして、子どもたちから多様な動きを引き出すこと

とを心がけている。講師講習会で紹介された遊び「言うこと

一緒やること一緒に」がいい例だ(上表参照)。一つの遊びからリズム

一緒に楽しめることです。一つの遊びをさまざまな面で、

泽「一チにはさまざまな面で、協力いただけています。保育士たちにはいい刺激になり、子どもたちも自分から体を動かして遊びを楽しめることです。一つの遊びを

一緒に楽しめることです。一つの遊びを

*2組に分かれて、相手陣地にボールを投げ合うゲーム。専用のボールがない場合は、1枚の新聞紙を丸めてボール状にして投げ合う。投げるという動作につながる運動遊びだ。

ゲーム性を高めた「ボール遊び」や「ロープ遊び」などでは、子どもたちが必死にボールを投げたり、飛びつく姿が印象的だ。ケガをしないように、握りやすく軽いボールや滑りにくい平らなマーカーなど、アイデアグッズも導入されている（右下写真参考）。また、保育士の皆さんもチームに入り、子どもたちと作戦タイムを開き、ゲーム前の声かけ（「頑張るぞっ！」「絶対に勝つぞっ！」）を行うなど、本気になっただわる。先生たちの生懸命さが子どもたちに伝わり、動きがいつそう引き出されていました。

「また、もう一つのねらいは、勝負にこだわることです。子どもたちがお互いに競争しながら、全力で遊んでもらいたいと考えています」



「ロープ遊び」の導入段階。2人組で引っ張り合いから



ロープを使って大人(先生)を引っ張る



床に置いたロープの取り合い。最初は4本から。ロープの数を徐々に減らしていく



簡単な手遊びもさまざまなアレンジを加えることがポイント

なマーカーなど、アイデアグッズも導入されている（右下写真参考）。また、保育士の皆さんもチームに入り、子どもたちと作戦タイムを開き、ゲーム前の声かけ（「頑張るぞっ！」「絶対に勝つぞっ！」）を行うなど、本気になっただわる。先生たちの生懸命さが子どもたちに伝わり、動きがいつそう引き出されていました。

「負けた子が悔しくて泣き始めました。すると、すかさず澤さんがもう1回やろうと子どもたちに声をかけていました。遊びを通して勝つことも負けることも経験する。貴重な学びの場だと思います。そして、遊びの本質は、競争です。楽しいからこそ勝負にこだわるんですね。また、「言うこと一緒やる」と一緒に「爆弾ゲーム」が上手にアレンジされ、実践されました。グータッチやポジティブなことばかけなど、指導者からの「認める」「褒める」もよく意識されていますね」

アレンジや道具によって多様な動きが引き出されている澤さんの遊びの展開に、佐藤善人先生は大きく頷いた。

「今年度から保育所の運動会で、運動遊びの実践」をさせて澤さんの二十数年にわたる運動遊びのキャリアは、ACPを取り込むことによって香川県でさらに浸透していくことだろう。



澤さんはまるでマスコットキャラクターのような体型と笑顔の持ち主



使用されたアイデアグッズ。革製のボール（左）は軽くて、投げやすく、当たっても痛くない。平らなマーカー（右）は滑りにくく安全

「幼児期からのACP講師講習会」修了生が実践指導! 「簡単な遊びをいかに楽しく実践するかを学びました」

講師講習会修了生がACP普及講習会の参加者の前でアイスブレイクとして運動遊びを実践。
ACPの普及とともに、活躍の場もどんどん広がっていく。



ACP普及講習会でアイスブレイクとして運動遊びを実践

「『幼児期からのACP』を学童保育の仕事やスポーツ少年団でも紹介できたらという気持ちがあつて、講師講習会に参加しました。普及講習会は遊びの紹介が中心でしたが、講師講習会は指導のポイントなどいろいろ学べたので、とても収穫がありました」

60~62ページで紹介した澤さん同様、細野芽生さんも昨年9月に埼玉で開催された「幼児期からのACP講師講習会」の修了生だ。現在は東京都国分寺市内で学童保育の仕事をするかたわら、硬式テニスのスポーツ少年団でリーダー活動に取り組んでいる。1月22日に、東京都北区の味の素ナショナルトレーニングセンターで開催された普及講習会の冒頭では、講師講習会での実技の腕を買われ、アイスブレイクとして運動遊びを実践した。



「ACPをいろいろな場面で活用できれば」と語る細野芽生さん

「講師講習会を受講して、一つの遊びをどのようにアレンジするかを考えるようになりました。スポーツ少年団でレクリエーションを実践する際、限られたレパートリーではどんどんマンネリ化してしまいます。講習会では、先生方が同じゲームでも、いろいろなパターンの動きを引き出していくのがすごく勉強になりました」

初開催となった今年度の講師講習会では、「遊びをどのようにアレンジして、子どもたちからさまざまな動きを引き出すか」がテーマとして強調された。講師を務めた佐藤善人先生はテーマのねらいを語る。

「簡単で、すぐできて、おもしろい遊びこそ、保育所や幼稚園、小学校、スポーツ少年団などの現場で繰り返し行われます。アスレチックのような複雑な遊びは、子どもだけ準備することは難しく、継続できません。指導者は簡単でおもしろい遊びを紹介し、そのとき、アレンジの例も示すといいです。そうすれば、子どもはどんどん自分たち流にアレンジして、継続して遊びます」

細野さんはアイスブレイクで、「体じゃんけん」に独自のアレンジを加えた「ジョーズ」や「お寿司」を披露してくれた(右上写真参照)。

「子どもたちは遊びにだんだん慣れてくると、自分が好きなお寿司のネタのポーズを作ってきて教えてくれるんです。楽しいです

ね(笑)。体じゃんけんも「勝つ」だけではなく、「負ける」パターンもあって、じゃんけんだけでもすごくレパートリーが広がりました」

また講師講習会では、遊び方を一度に説明するのではなく、説明したら実際に動いてもらう。この繰り返しで最後にトータルな遊びとして実施することが大切であることも強調された。

「自分が思っていたよりも、子どもたちにはできないことが多いんですね。じゃんけんは“できて当たり前”と思っていたましたが、低年齢ではうまくリズムをとってできないし、兄弟がいないと生活のなかでできる機会も少ないようです。動きから丁寧に説明して、簡単な遊びをいかに楽しくやるのかが大事だと感じました」

細野さんは今後、スポーツ少年団や学童保育の場で活動する指導者にも、「幼児期からのACP」への理解を広めたいと意気込んでいる。

体じゃんけんをアレンジした「お寿司」を披露する「らっしゃい、らっしゃい」の掛け声が子どもたちにも大受けとか